特別
へ13
4148
4

好色旅用記同録　巻四

一　[illegible]

二　[illegible]

三　[illegible]

アナキ
56-4108

四　殘て銀子八匁

死ぬるハ生るなり　毎月

又　蛤好きん也

屋中のよ　味ひ

乃ち　祐次

好色旅日記　巻四

○松坂ちりおなじく人　に里

右は小山の菜師うんけいの作。彩菜風俗雪
ゲ芋やの女八郎兵衛風俗してけやら
しくあもしびたしまいす。さるめの茶屋とも
いひくしたけ。ゲとも。いまくしまんなりこんぐうぶ
坂地蔵の死しこ。ぬ。ぬのあこ。ぬさもちり。
ちだ川をとりてたよみちて出来。い
さだ川をとりてさいろう村。田村丸の
文芸。ぬんま業。古花義。尤おたくどの松。むし
おなこ。ぬせの出るりきる女よ。ぬえありで。尾張の

西へゆきてぃみじうう石まれいがうの女
たちどの松ちつくくとあるくふうみて
のもちへる流るる。橋つくりて山崎の氏神の文八幡宮
○松だくさり山田へ一里ます
三尾が谷八中河原町よりの山田へくるあま
ひろ町ひたよりたるの社。外宮に十末社のうち
山田ハ二万げんの家数といつり。よのうがふ大社れ
家。文ぎり町ひたに月よこれ文右八神宮山。
ミ。ゝ見門よ橋。たりよ西つけの文。一ノ名井置
の門さるがーら。ぜんぐーひの市門。外宮のた
ちんふいちゆとくこうれ。るなり。右八神聖

定鎮の文。あまれ男子のあるよ大なる備のもとに
活ゆりれいせさ海へ乃おみさまいちすぐ
みるこふきこりて海のいづくとめる。男尾の
上ハこう海ぐちこうり。間文へり十八町ハ海ま
ち海のひくふあまくあり。びくよぐ海ぐさの新海
三ま板大ゆ長。まりけ海。皆山右。九山中山ハ
名山なり。神ふの寺。右の藪のうちよどんどい
和尚開基のる。こうり四文へ文十町。長本町
へ山ゆるり。文殊堂ゆて死人を通さぬ橋あり。
右よおくん山。ゆりとよりる水あり。名んま堂ゆて
あいの山。お伏おゆ尾。およられる子の源を流

三味線引て小唄。弟よ殘屋敷躍を仕ふ。
伽陵頻のこうもよ。ろうとたせ。お彩畫像
美麗乃腕乃孔そ。ぎやもい一ぬ。
の者なじめられて入八行のくれとも孔孫を寺
よ。ようとうぬとうしざうり。百二百文いつのまに
うゆたちしぞ。ぞ。のみ判をあげうつたりけまと。
あるハセつハナ二三文の壹ゆかちまたさせぞん
ちうどうりちあものこちつをぱらをもも
うこ。ぞうるづけんぢうじやぞりひぢじやと。
ぞるありぞみとうしのつく後のふあるられ
ちんぱおのちろんぐ孔間紙ちうむをあこちう

たゝよ福ふかき姫もゝあそ神の宮のさういこゝ寺にうり
ものゝ情あり。たゝ福みり地蔵いつきづちゝ
の杖ふる市は町るて中の地蔵こゝふかのうりてる業
屋あり。ろさるすい神ハいさむるたゝ名れどゝ。
いせまりでなくいとあゝ海をうゝさて海ゝ。峯
角市文字ハ如ゝの撮すでいつるよるり御見世看
板あり。蔵芝居ハ狂言ハ絵ハしはゝ。ちくみ歌ま
狂ゝてよさむ風の里中の系をゝてぎさかつるお
いちといあ髪形流ゝ気食とたりのべしうちゝけ
ふ神ゝやこゝづゝ化とりあり。ゝまる市ゝ海ゝ
のゝけをゝ。ゝ。ゝ地あゝゝハ孫ようざゝべさゝ。前

ざけゝ海ハ名ゝよさたゝよ云の絵屋をんて石橋と
ゝさゝ。あれゝトなゝゝ系ゝ地ゝでんゝゝゝり
ひゝのゝゝハあり。右よ一里ゝまゝよ三町ゝまゝゝ比丘
尼寺けいゝゝゝ。あんとゝ作ゝ。弁ゝ天ゝ新ゝ宮ゝて
うゝゝゝ。ゝさ百二十ゝ。これいゝて門ゝもいゝゝ。
うゝひゝて身ゝゝゝゝむゝ。門稲荷たゝよ山の神ゝ
宮のおゝりあゝ海ゝの絵ゝゝゝ。稲ゝゝゝて
内文ゝ一のゝ弁。ゝみゝゝゝゝゝゝゝゝゝのゝ
門ゝゝゝ。内宮ゝゝ天照ゝ神ゝ絵ゝ朝日ゝ文。
ゝよのゝ文。桜のゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝて名ゝ八ゝ。
ゝ海。ゝゝゝ。ゝれ海川ゝゝれ弁。竹の郡ゝ今

拾遺おもしろくおけるこのあへくるよみとす
る川とつたへおもひ出うらこ伝宗乃おれ枝の大ま
くり夜ハ雲とびわるゝ百千万億さいもで
川のひろさ幾百へりもちろん四りで三里八丁ゑ
○大坂より伊山田まで　百十七里
○京より三十四里しでし祈おもてありと
えめぐりの業用稲荷ほんざいさて鳥帽
ふよ上鍛冶屋男をとんれむ去年れ去年でおげやぼ
古敷の財布方のとくしやこれハ保さ海をまさ魚やお金ら
ちあよりう稲荷やのあ房りよまち芋りよひ祈りと
ぶんうさなく山方ぶりう。ゆづれさうんのていれめでしや

いぢとちれるうさよりもあひくちうて拾ゆまするを伝
門食ぶをハ拾よ高ゆて盃吸拍四人舎月ゆを大盃く
いせ天ちうとつんてぐらうくの餅無あるさま接
よ一郎ふんの業類部屋牧乃おりどる紀織でき
うぢりし孫四郎ぐりさらに三味よ引うくれてざと
酒よたりもあしてどれよどれておまよ引毎ゆ紀
ちというふ新ちうこまつて古市よ人をちらす
まびずぐりて七八人ゆるべくらあんねどうちまで
て大さうざずぐよ掲角の山伝ておろとそづむ伝
月湯そづと出を夜京衛門まち蓄をるふ酔
たうれ参うつあくる家入てけをあつとり

みぐるしかりけるを、腦のそこうさあるを
つまびらけども、出でそのけどもそこるれどもなほと
あさうれていせよりいりけるものよりといへど、蟲
りんよ紙ぐやるいうそれをとうみづさあひさ
だうり男りうさるりは蓑りをあくらんまぐれ
どあとでいらちもれさ蓑へよりうまは枝を
さるれ書ものうらう。夜のあけぬをうれ。
よ敷乃妻州いつくへうを遅くるうりとゆて。
うろこびぬるをへ。男が別や乃妻老ハこあうと
うるあ乃男ハ別りといひをへど妻よ
れめよりてアさねばといふよ。ぬるがうら

花をとりけばはみ見深き庵山度れ系文よつき。
庭間家いもみりせうまを神文のいまぐ境間うて
一ゆよ花をうされて神ーりひ一家をあれまぬ
よ付ア板よのせさいいせ国の地義ましておうり
まりるの不あ垂よ大板まで八あ蓑うさく角合
しぱうまとよ物角うある義ゆうせ。ぐを新乃
ぐれぐはされあるうひ物とそあやらの関まれ
うを紙ぐやのりゆへ板ぐいうまといへぐ乃安
あいさに二度ふさぐ。さてもく周果をよゆへふ
つうようぐの園よ庵うやへハれくぐくうれまで
引うけて八船乃上代弘辱と門義ぬちんあをうう

せば。六条よりとうこうをそ。雪ふる為さぬるふうさ
れをとこ。ちくふあそれまるハまの蒼う羽れとこ
こう。簑をもりるのごく。風魚の水よあ〳〵ハ
ふして。秋のあり月乃ハ乃ふく。ふたゞひてたゞ
うれ人めの関まてをそれ。三月十八日乃
あけぐの源ゞ絶をひうへてさきてを安孤世のさ
ゑへたゞめすうこぷふいうまでおうゝあるゞし。
日はたるものこゝをあさ海をたゞうゝすでゝ風邪動
高まてよあうせますいこれうこうの去をさと
ゞしめうれていざあく元安めとはめよ加〳〵ぬ
ちさうう。たこされるお月ゝ。ふ。ゝ。

ゆりゆゑへうう法くあをたなうゞよそそせゆゝ
よ方のけうゞうてこゝう。まこに知る命ゆゝバ
ひまく雪れ芝しもありくゝと。ゆゞりゝ法衣
一ちゞりよ法しゞめを深いさめて。これゞさゝを
とゆるゞうさめていこれのをれなり。親化をそれ
孤とをゝぬでもおいをゞうゝゞとをといふう
ちよ。ゆくゝゆやといゝ人花よ乃安をやく雪義
とゞせてゝれゞ上下の孤人をれゝうハあまを
祥集のゆりようこさをゝら色て月をあをゝれ
ぬゝを孤ゞまるうひいゝふうきゞ法東の若口ずさ
てゞうゝい大ゞやゞそれゝあせよゞゆるをてをゝれぬ

和いもんどもけうがるを見ぬふりをして。
うれしそうに親に指のはうし。魚をのちあげるのを
いやがりもるをみて。源を指よ魚をとりつけしを。
高生めとうをとうつ指よりよ。左右へちらりと返る
色うつざや。主人高ぐ花のトちり魚ぐれ出て
ゑもうごうず。引あけてみれば。やあれやけさの
ぐ花をといよ海ごひとして。古笠切て果りよるる
とゝ乃妻色おどろさ。彼小乳ぐもの。小乳ぐもぐ
生りうい身をちうるくも。敷しうなとて。畳乃
やう形る親に海地をちぐりなぐし。源いよく動
高ぐとりひ指て。秋ろ乃性魚よりうとてぐり

こりを安房山のふもとに八ツ時分に
ぬかれこの浦浜さへちらうあく深さよりあがりへし
ゑ蓮とうゑりよあんをあることとそりつか
たがひにあれのこて角さる神はねあるまで。
法金をとやちまと同じたよ清しやらあく
親八ゑられそへてそこの宗教寺小鼓をおとり
て義経どさかめしがたき事よつさし男たりや
ゆりきんぐさ長よあつておもりはいてさらく
私ことれ法ぐはとそ八ツ三ゑ包をなげちして。
まさつるよ巻ふとちうりと振りぐ家や
とまでへられそこれ一度の家ちりともあるはり

よきゑづうひすりてもパ十日九海岸とやあうとあ
腕さんうりふ分別ぐらうまとちがひ。ほ戸柳へ
れ花乃動作ふがひそりるべしと。死ぬる事八
うぬ後篇それより武蔵をさして急く旅程
なひよりせん美の均もりけ。三蓮ゑ向ようもめうと
まがうりんてゑうきあうえぬ歩ちがこ。世八あ八
とありさざめ物ととそ中ぐはり

○関より鹿山へ　三里半

ひ一ハ三乃関あり。ゆ後の宮石彼の宮新蔵乃
関いちあり。ひいたよ密蔵の羽黒山とうり
うとりふ山あり。花の中よ城の大まんを

○飯山より庄堂へ　二里

町の入口に小城ありるりさの村をてうりん橋十三間
○右より左へ別れ道あり○いつこうこ
七十ち○庄堂儀ち拾　ゆ小橋茶あり。茶あり

のりけ茶十銭
うこり三十文
人くく二十文

○庄野より石葉師へ　九三町

たよすこうこうこ河あり○町のはたのこ
よ葉師茶茶屋法師の作。こ名ぬさ内義貧石
こり○たよれてんこ。こ名もこあり

のりけ水二文
うこり十二文
人くく八文

○石葉師より四日市へ　三里八町

まりうれ京○右の茶内内よ作茶屋
○はえつさ絵まんじうち名町代橋平ある
○たいこり左へ入いせ海道こまさ村をてんこ

月八十四文
月四十二文
月二十八文

○四日市より桑名へ　三里八町

ちこ名こ一ぬ三十ち○ここち川○こち川ちこ一平ある
あさり川土橋ぬ十一ち三○町屋川百六十ち桑名ぬ
ぐりのあるり。貝合の貝はのと用白蛤の子と

月百四文
月八十文
月三十四文

うこよさこて茶。風俗うこれをこうれは二
三人こうけて酒をのむ男女ざこやさて山野と
こ名ぬあぐうひとこいぬまことじやげとかこを
茶の下女これ。ぬ人ぬ茶ぬこ一ぬ三ちもこさこで
朝晩こべますぐとこ。こうこりこさこうこいてるよさじ
これとあこしば。大この橋右こ城をぬそめ○氏茶ぬ
ぬ天武天皇壬申武帝二年の正月あり。ぬ
○桑名より宮まて七里　毎ちこ宮熱の茶
○あぶ村ぬ文○かち茶ぬ文○茶茶七十文○二人ぬ文

○のり船百二十ぴき文　○ぶのうち百廿ぴき文　○のり船ぴき十文
○ちさこ船廿ぴき文　○ごさこ丁ぴき十文　○三人ぶのさこ賃六十文
○ぴき人水子さこ賃三百ぴき十八文　（船のり三百七十文　胴のり六百八十ぴき文）
○五人水子さこ賃ぴき百八十ぴき文　○三十ぴきのり四百八十ぴき文
○六人水子さこ賃六百五十ぴき文　○ぴき十七人のり六百六十七文
ぴき〳〵ハ本墨川のあがれの玉海よ入ポ、あれど
ちりぐ〳〵ぶ屋ぶ屋へ〳〵ぬれバ云屋ぶ屋へ〳〵ぬれども風
ちぶぐしくいのぐらぬぐらう。依屋へまうるべし
三ぴき川上よ津海牛ぶ天皇。家乃祇園と一緒
ぶ中よ舟のり船せいひゞ〳〵よ地の間のうつ〳〵乃ぶる
源の義経をぶ田ぶ乃ぶむこの政信ともあれぐりて
こうせ〳〵ぶ乃ぶ。今よ右懐ありたよ姫海とも地の
るあ乃ぶ乃ぶ乃ぶ

○宮ちりなるみへ　壱里半十二町　のうけ　五十文　人足　二十四文　十六文

あつてさ大明神いたゞき地倶梨伽羅不動明王乃
変化。八幡大菩薩の変化草薙の変剣なり
添ちまた乃文八稲田姫神とかたるなり
枝葉家宝帝王の異毛とのゝ伝なり。楊貴妃とかた
ぬれるものゝはゝあつてさ明神のありまひてひさし
くそはたゝるよ玉とかたるなり。日本とそれなりゝぼといふ。
こゝを蓬莱嶋とも蓬莱山たゝみ〳〵くゞらく剣の変化
なり伝人塚むしり　彦人へうゝ紀まよのつく
こゝふあぐり。後よ彦とあつて天よあぐる宮と。天彦
の宮とかふ伝ゝる宮ハ八幡。花よるゞごやの城ゝ。
山ゞ紀ゞ。紀ゞ。紀ゞ紀者あのく蓑笠をとりてこゞ

あつふとりてゝ尾ゞくの田畠拾十ゝ石　中酒橋
壱反

見ゝけばゝそに嶋海のうゝとひ引ゝあ流ゝのるゝ
○嶋海ゝり池紀剣へ二百年十三両　月八十匹文　月匹十二文　月大八文
四生村六月朔日よ新米ゝる
とゝり村尾張とみゝへとの引ひ橋ゝり
いも川ゝどんそだ切ゝり。乃年一ゝどんゝの夜ゝ
ほゞのゝるゝしやくのゝてゝり。ゝようゝやの城ゝ
たのゝよゝあゝざのゝ神。ゝ池ゝ紀剣ゝ切紀
ゝれよ池紀剣とゝの。毎年四月よる市ゝり。
ゝ時伝方ゝりゝとゝある女ゝ多くゝあつまりて。
ちゞいゝゝ原朱雀のゝめゝゝるゝゝくゝ

おそろしやなるかな娘ハ手ひざつき居くせ實てち
とまかつみれ姉とのかけて給ふ。まるまるとうへでこれ
それの様もゆく世じといつもまるかとかけると
びるあれハ糊こそ紀とのべ。いつまでもおわりど
さもかきし。たのくさま御茶屋あり

○ちりふより鳴海へ　三里口町　のりかけ百廿文　からしり五十八文　人そく三十九文

池鯉鮒より出一里ばかりに八ツはしのふるあとあり
ひさいしより業平の作りしもかんくろうの段
尾張の郷の名代絞ハ小濱のかぶりて東やまざき
郷やその本の田乃中ふさて藪あり。古あの
鳴海なして土足りおそくさくのある[illegible]

物しりひし所ハ茅生しげりおほく　絶の[illegible]
後のるとゆる○夫より熱田橋二百八間○町の入口ふまつ
じ川とて橋あり巾二間○夜の方に塚あり。かけ列を
二日めといふよしちとおれどもおひたゝひ今
までも名あそてるくりかへしさだめて
役者の博奕に討れけり。勤當志てもとのか
とハやくださこの火ハも自身さへねいのまれなど。
またも滾かりける女ハ女なそへる寂さあ
さくら。芸子かしり雪の肌にとけておぼれて流り
耳をとりて捨さまし。さるれ物ハかりく
それども此ハしらずんでつきとのがるぬとふ迄

みんつうがあるふかし細しと朝けられけるようを
てと腹乃うへて茶漬うひ　と。発丁めよまで
ゆーといそれ　みのぴむうひハうれ　さい
○景家より薮川へ　七里半九丁　のうけ　林十二文
　　人うけ　ナ八文
大平川　橋口十二号○たの方ゆれ茶屋の跡。高の入口
のようけよりうるぬ　表として　穂の紫ゆ　腹ようら川
れ右行山くだれよ。あるとそ
○薮川より赤坂へ二里九丁　月七十文
　　月三十文
　　月二十四文
たの山中より浄土ふ法光寺へ
東照権現様ゆ幼ゆ付れるあるひあるむ　ふ法寺
山石ようあるぬ　ふ里あり。ふの門茶屋あり
四巻終